

財務報告書2011

平成 22 事業年度

平成22年4月1日～平成23年3月31日



北海道公立大学法人札幌医科大学

目次

1. 財務概要	1
2. 平成22事業年度財務諸表の要約	3
3. 過去4年間の推移	9
4. 財務指標(年度間比較)	18
5. 資料編		
(1)貸借対照表	21
(2)損益計算書	24

○財務概要

資産・負債・純資産の状況

「貸借対照表」は平成22年度末における財政状態を表したものです。
 資産は前年度比8億円増加して499億円、負債が1億円増の125億円、純資産については7億円増加して374億円となっています。

貸借対照表 【平成23年3月31日】

(単位:億円)

	21年度	22年度	増減
資産の部	491	499	8
【固定資産】	418	420	2
土地	115	115	0
① 建物等	234	231	▲ 3
② 備品	59	60	1
図書	8	8	0
その他固定資産	2	5	3
【流動資産】	73	79	6
③ 現金・預金	23	36	13
有価証券	1	0	▲ 1
④ その他流動資産	49	43	▲ 6
資産合計	491	499	8

	21年度	22年度	増減
負債の部	124	125	1
⑤ 資産見返負債	30	26	▲ 4
⑥ 借入金	12	13	1
⑦ 未払金	43	46	3
寄附金債務	5	6	1
その他負債	34	34	0
純資産の部	367	374	7
資本金	346	346	0
資本剰余金	▲ 3	▲ 6	▲ 3
⑧ 利益剰余金	24	34	10
負債・純資産合計	491	499	8

注)各金額は単位未満を四捨五入しているため、計は一致しない場合があります。

主な増減内容は次のとおりです。

資産の部

①建物等:231億円(3億円減少)

・建物等231億円は、建物等の取得価格265億円から減価償却費累計額34億円を控除した額です。

②備品:60億円(1億円増加)

・備品60億円は、備品の取得価格104億円から減価償却費累計額44億円を控除した額です。

③現金・預金:36億円(13億円増加)

・現金・預金は36億円で、昨年度より13億円の増となっています。このうち、有価証券1億円が預金となっています。

④その他流動資産:43億円(6億円減少)

・その他の流動資産として、未収学生納付金、未収附属病院収入、医薬品及び診療材料などで43億円となっています。

負債の部

⑤資産見返負債:26億円(4億円減少)

・資産見返負債は、26億円で、昨年度より4億円の減となっています。資産見返補助金等と資産見返物品受贈額の減によります。

⑥借入金:13億円(1億円増加)

・長期借入金は、1億円の増の13億円となっています。

⑦未払金:46億円(3億円増加)

・未払金46億円の内訳は、職員退職金未払金11億円とリース債務のうち1年以内支払分6億円及び4月以降支払う経費となっています。

純資産の部

⑧利益剰余金:34億円(10億円増加)

・目的積立金16億円と積立金8億円、平成22年度当期未処分利益10億円の34億円となっています。

費用・収益の状況

「損益計算書」は平成22事業年度の運営状況(経営成績)を表したものです。
 経常費用は前年度比1億円増加して290億円、経常収益は8億円増加の300億円です。この差額に臨時損益を加えた当期総利益は前年度比7億円増加し、10億円となっています。

損益計算書【平成22年4月1日～平成23年3月31日】

(単位:億円)

	21年度	22年度	増減
① 教育・研究等経費	20	21	1
② 診療経費	112	115	3
受託研究・事業費	5	4	▲ 1
③ 人件費	146	144	▲ 2
④ 一般管理費	6	5	▲ 1
財務費用		1	1
雑損			0
経常費用	289	290	1
臨時損失			
当期総利益	3	10	7
計	292	300	8

	21年度	22年度	増減
運営費交付金収益	69	63	▲ 6
⑤ 附属病院収益	190	208	18
学生納付金収益	9	9	0
⑥ 外部資金収益	5	4	▲ 1
⑦ 雑益	7	6	▲ 1
その他収益	12	11	▲ 1
経常収益	292	300	8
臨時利益			
計	292	300	8

注)各金額は単位未満四捨五入しているため、計は一致しない場合があります。

主な増減内容は次のとおりです。

経常費用

①教育・研究等経費:21億円(1億円増加)
 ・北海道からの特設講座開設に係る助成金獲得等による研究経費の増

②診療経費:115億円(3億円増加)
 ・患者数の増に伴う医薬材料費等の増

③人件費:144億円(2億円減少)
 ・給与改定に伴う減

④一般管理費:5億円(1億円減少)
 ・経費の節減による減

経常収益

⑤附属病院収益:208億円(18億円増加)
 ・患者数の増に伴う診療収入の増

⑥外部資金収益:4億円(1億円減少)
 ・受託研究事業の減少に伴う受託研究等収益の減少

⑦雑益:6億円(1億円減少)
 ・文部科学省等からの補助金の減による補助金等収益の減少

損益計算書～法人の運営状況を明らかにするもの

注)各金額は単位未満を四捨五入しているため、計は一致しない場合があります。

		(単位:百万円)	
費用	経常費用		28,988
	業務費		28,446
	教育経費		537
	研究経費		1,133
	診療経費		11,520
	教育研究支援経費	※1)	456
	受託研究費		310
	受託事業費		54
	人件費		14,436
	一般管理費		529
財務費用	※2)	13	
収益	経常収益		30,002
	運営費交付金収益		6,252
	授業料等収益		866
	附属病院収益		20,775
	受託研究等収益		356
	受託事業等収益		65
	寄附金収益		511
	施設費収益		37
	補助金収益		356
	資産見返負債戻入	※3)	529
	財務収益		1
	雑益		253
	経常利益		1,013
	臨時損失		1
	臨時利益		1
	当期純利益		1,013
	目的積立金取崩額	※4)	16
	当期総利益		1,029

【業務費】
 ・目的別に「教育」「研究」「診療」「人件費」等に分類
 ・「教育経費」「研究経費」等の業務費は、建設設備に係る減価償却費及び保守経費を含む
 ・「受託研究費」「受託事業費」は受託研究等に係る人件費を含む

【経常収益】
 ・「運営費交付金」及び「授業料」は、資産を取得した分を除いた収益
 ・「運営費交付金」「寄附金」等で翌期以降に使用予定分は、債務(流動負債)として翌期へ繰越

【臨時損失】
 ・臨時損失は、固定資産の除却を計上

※1)教育研究支援経費～附属情報センター等の大学全体の教育研究を支援する施設の運営経費です。

※2)財務費用～附属病院にかかる借入金の支払利息(償還利率 ⑱⑳1.05%、㉑0.85%)

※3)資産見返負債戻入～運営費交付金、授業料、寄附金等の財源で取得した固定資産の減価償却に伴って収益計上し、損益を均衡させます。

※4)目的積立金取崩額～目的積立金を財源とした費用相当額を計上します。平成22年度においては、目的積立金を取り崩し、細胞プロセッシング施設関連経費に充当しています。

キャッシュ・フロー計算書～現金の出し入れを明らかにするもの

注)各金額は単位未満を四捨五入しているため、計は一致しない場合があります。

		(単位:百万円)	
I	業務活動によるキャッシュフロー	2,075	【業務活動】 教育・研究・診療など通常業務に伴う資金の出入りを表すもの 業務活動による資金調達 21億円
	原材料、商品又はサービスの購入による支出	▲ 12,216	
	人件費	▲ 14,726	
	その他の業務支出	▲ 501	
	運営費交付金収入	6,407	
	授業料収入	676	
	入学金収入	81	
	検定料収入	15	
	附属病院収入	20,434	
	受託研究等収入	355	
	受託事業等収入	76	
	補助金等収入	548	
	寄附金収入	643	
	預かり科学研究費補助金等増減	▲ 5	
	その他収入	287	
	国庫納付金による支払額	0	
II	投資活動によるキャッシュフロー	▲ 449	【投資活動】 固定資産取得や売却、余裕金の運用など投資活動に伴う資金の出入りを表すもの 投資活動への資金利用 ▲5億円
	有形固定資産の取得による支出	▲ 1,574	
	無形固定資産の取得による支出	▲ 1	
	有価証券償還による収入	110	
	施設費による収入	1,014	
	利息及び配当金の受領額	1	
III	財務活動によるキャッシュフロー	▲ 385	【財務活動】 借入金による資金の調達や返済など財務活動に伴う資金の出入りを表すもの 財務活動への資金利用 ▲4億円
	長期借入れによる収入	520	
	長期借入金返済による支出	▲ 260	
	ファイナンスリース債務の返済による支出	▲ 632	
	利息の支払額	▲ 13	
IV	資金に係る換算差額		
V	資金増加額(I+II+III+IV)	1,241	平成22年度キャッシュ増加額 12億円
VI	資金期首残高	2,329	
VII	資金期末残高(V+VI)	3,570	

注)キャッシュ・フロー計算書とは、資金の調達や運用状況を明らかにするため、一会計期間の資金の流れを「業務活動」・「投資活動」・「財務活動」の3つの区分に分けて表示し、報告するものです。

行政サービス実施コスト計算書～住民等が負担するコストを明らかにするもの

注)各金額は単位未満を四捨五入しているため、計は一致しない場合があります。

		(単位:百万円)	
I	業務費用	6,245	<p>道からの財源で賄われているコスト</p> <p>・損益計算書における費用から授業料収益や病院収益等の自己収入を差し引いたもの</p> <p>(1)損益計算書の費用:290億円</p> <p>(2)(控除)自己収入等:228億円</p> <p>業務費用:62億円</p>
	(1)損益計算書上の費用	28,989	
	業務費	28,446	
	一般管理費	529	
	財務費用	13	
	臨時損失	1	
	(2)(控除)自己収入等	▲ 22,744	
	授業料収益・入学金収益・検定料収益	▲ 866	
	附属病院収益	▲ 20,775	
	受託研究等収益	▲ 356	
	受託事業等収益	▲ 65	
	寄附金収益	▲ 511	
	資産見返運営費交付金等戻入		
	資産見返寄附金戻入	▲ 30	
	財務収益	▲ 1	
	雑益	▲ 138	
	臨時利益	▲ 1	
II	損益外減価償却費等相当額	894	<p>損益計算書に計上されないコスト 20億円</p> <p>・道から出資された資産等の減価償却、及び一部の退職手当等、制度上費用に反映されない負担相当額</p>
III	損益外減損損失相当額		
IV	引当外賞与増加見積額	▲ 7	
V	引当外退職給付増加見積額	1,142	
VI	機会費用	444	<p>免除もしくは軽減されているコスト 5億円</p> <p>道、市町村等の資産利用に関して、北海道公立大学法人ゆえに優遇された相当額</p>
	・国又は地方公共団体の無償又は減額された使用料による賃借取引の機会費用	16 ※1)	
	・地方公共団体出資の機会費用	429 ※2)	
VII	(控除)国庫納付金		
VIII	行政サービス実施コスト	8,718	<p>行政サービス実施コスト:87億円</p>

※1)道、市町村等の財産の無償又は減額された使用料による賃借取引の機会費用の計算方法
近隣の地代や賃借料を参考に計算しています。

※2)地方公共団体出資の機会費用の計算に使用した利率
平成23年3月31日における10年国債の利回りを参考に1.255%で計算しています。

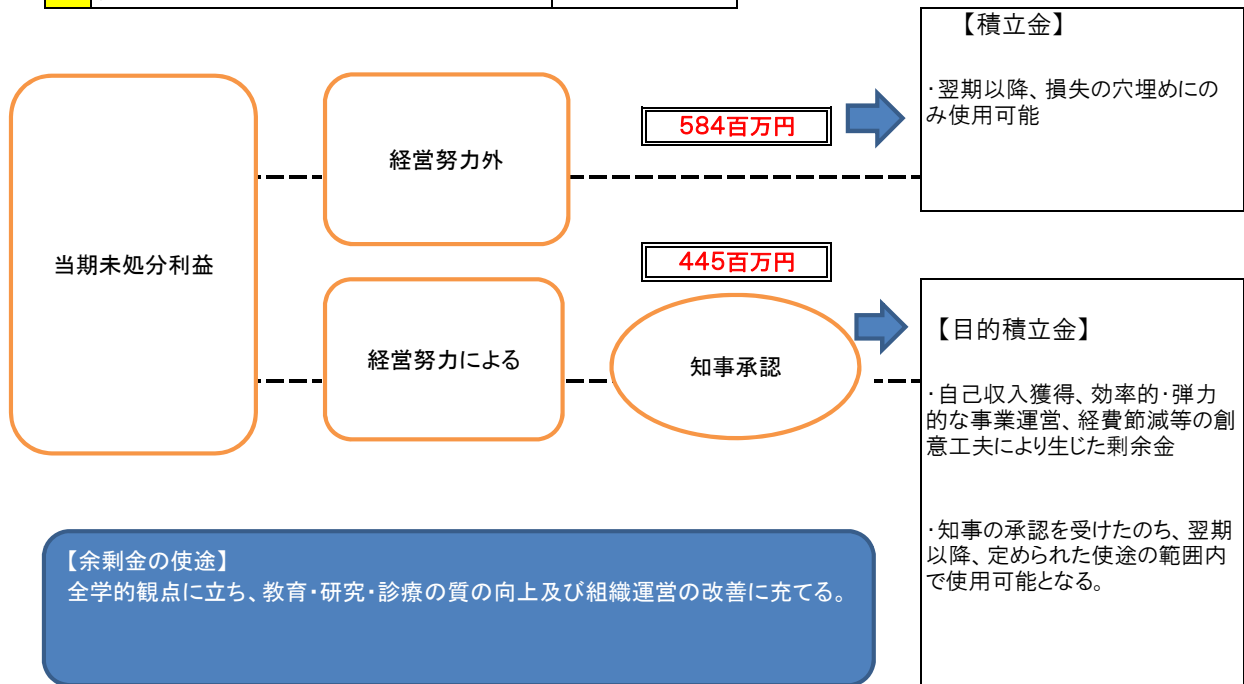
利益の処分に関する書類

注)各金額は単位未満を四捨五入しているため、計は一致しない場合があります。

(単位:百万円)

I 当期末処分利益		
当期総利益		1,029

II 利益処分類		
目的積立金		445
積立金		584



※公立大学法人には、株主のような営利目的の資本主が存在しませんので、利益を資本に配分することはありません。

そのため、獲得した利益のうち、運営努力(経営努力)から生じた利益については、北海道知事の承認を受けた後、次年度以降の教育・研究・診療を充実させるために中期計画の「剰余金の使途」に従って使用することが認められています。

決算報告書～予算の区分による決算を明らかにするもの

注)各金額は単位未満を四捨五入しているため、計は一致しない場合があります。

(単位:百万円)

区 分	予算	決算	差額	備考
収入	29,623	31,865	2,242	
運営費交付金	6,528	6,534	6	(注1)
施設整備費補助金	567	540	▲ 27	(注2)
自己収入	21,014	22,526	1,512	
授業料及び入学検定料収入	905	866	▲ 39	(注3)
附属病院収入	19,505	20,775	1,270	(注4)
雑収入	604	885	281	(注5)
受託研究等収入及び寄附金収入等	967	1,726	759	(注6)
長期借入金収入	520	520	0	
目的積立金取崩収入	27	19	▲ 8	(注7)
支出	29,623	30,220	597	
業務費	27,526	28,224	698	
教育研究経費	1,659	1,680	21	(注8)
診療経費	10,458	11,626	1,168	(注9)
人件費	14,911	14,436	▲ 475	(注10)
一般管理費	498	482	▲ 16	(注11)
施設整備費	1,087	1,060	▲ 27	(注12)
受託研究等経費及び寄附金事業費等	736	663	▲ 73	(注13)
長期借入金償還金	274	273	▲ 1	
収入－支出	0	1,645	1,645	

注) 決算報告書とは、公立大学法人等の運営の見込みである年度計画の予算と決算を対比して表すことにより、その運営状況を報告しようとするものです。官庁会計に準じ、現金主義を基礎としつつ出納整理期の考え方を踏まえて一部発生主義を取り入れたもので、収入・支出ベースで表示しています。

- (注1) 北海道から運営費交付金債務の充当について通知があったことにより、予算額に比して決算額が6百万円増加しました。
- (注2) 入札結果に基づく契約確定額の減により、予算額に比して決算額が27百万円減少しました。
- (注3) 研究生等の減により攻究料等が減となったことにより、予算額に比して決算額が39百万円減少しました。
- (注4) 入院患者数の増等により、予算額に比して決算額が1,270百万円増加しました。
- (注5) 予算額に計上していなかった特設講座開設に伴う助成金収入等があったことにより281百万円増加しました。
- (注6) 寄附金及び受託研究の獲得に努めたことに加え、前年度からの繰越等があったことにより、予算額に比して決算額が759百万円増加しました。
- (注7) 事業の実績額の減により、予算額に比して決算額が8百万円減少しました。
- (注8) 注5に示した理由により、予算額に比して決算額が21百万円増加しました。
- (注9) 医療材料費等の増により、予算額に比して決算額が1,168百万円増加しました。
- (注10) 教職員人件費等の減により、予算額に比して475百万円減少しました。
- (注11) 経費の節減に努めたことにより、予算額に比して16百万円減少しました。
- (注12) 注2に示した理由等により、予算額に比して決算額が27百万円減少しました。
- (注13) 寄附金事業費等の減により、予算額に比して決算額が73百万円減少しました。

○過去4年間の推移

財務情報一覧

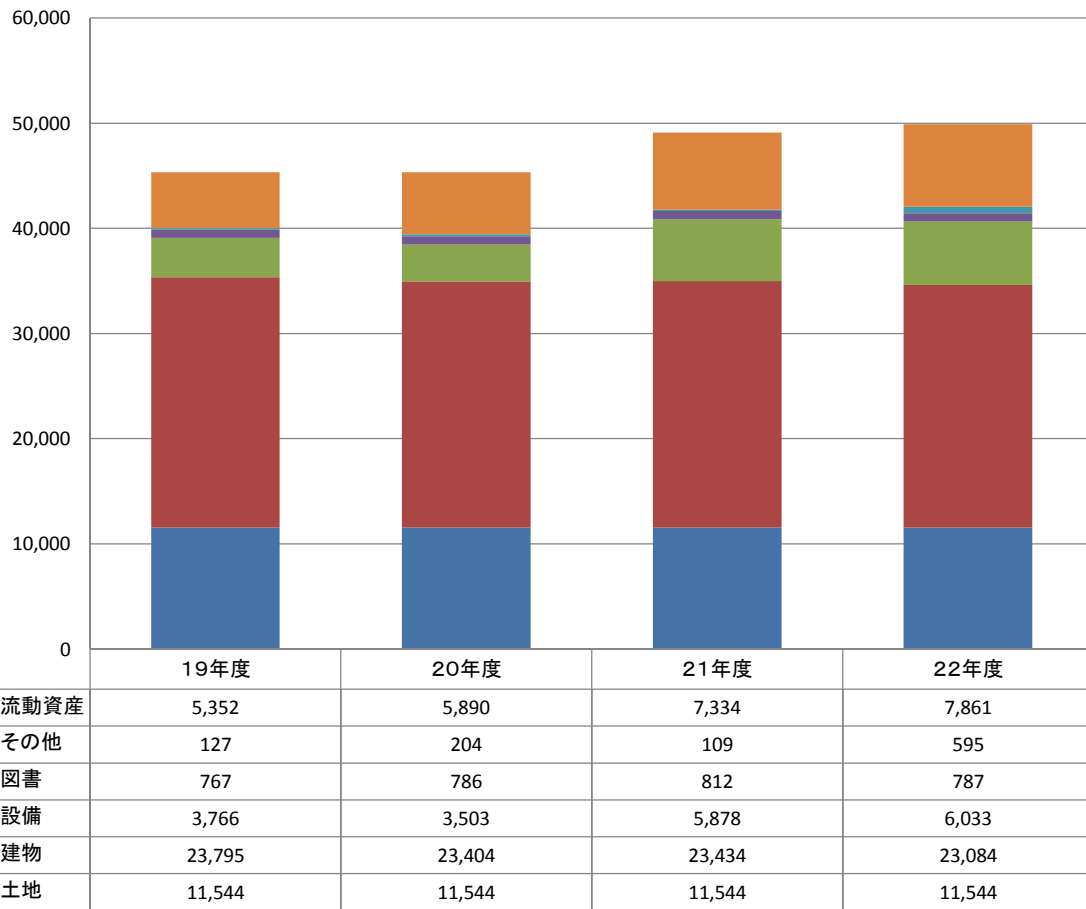
- 本学の財務情報を一覧で表示しています。
- 各項目の詳細については、それぞれのページを参照願います。

(単位:億円)

区分	情報の種類	項目等	19年度	20年度	21年度	22年度	ページ
資産・負債・純資産	年度末時点での財務の状況	資産	454	453	491	499	P10~ P11
		うち固定資産	400	394	418	420	
		負債	93	90	124	125	
		うち借入金	5	9	12	13	
		純資産	360	363	367	374	
費用・収益	1年間の財務運営の状況	経常費用	269	277	289	290	P12~ P13
		うち人件費	136	144	146	144	
		経常収益	279	284	292	300	
		うち運営費交付金	66	70	69	63	
利益と利益処分	利益の発生要因	当期総利益	15	7	3	10	P14
		目的積立金	9	6	2	4	
		積立金	6	1	1	6	
附属病院業務損益	附属病院の1年間の財務運営状況	業務費用	195	195	208	210	P15
		業務収益	199	197	206	217	
		業務利益	4	2	▲2	7	
キャッシュ・フロー	資金の流れ(活動ごとの現金の収入と支出の差)	業務活動	14	17	17	21	P16
		投資活動	▲6	▲9	▲6	▲5	
		財務活動	▲1	▲1	▲2	▲4	
		資金期末残高	7	14	23	36	
業務実施コスト	本学への住民負担	実施コスト	92	82	104	87	P17

注)各金額は単位未満を四捨五入しているため、計は一致しない場合があります。

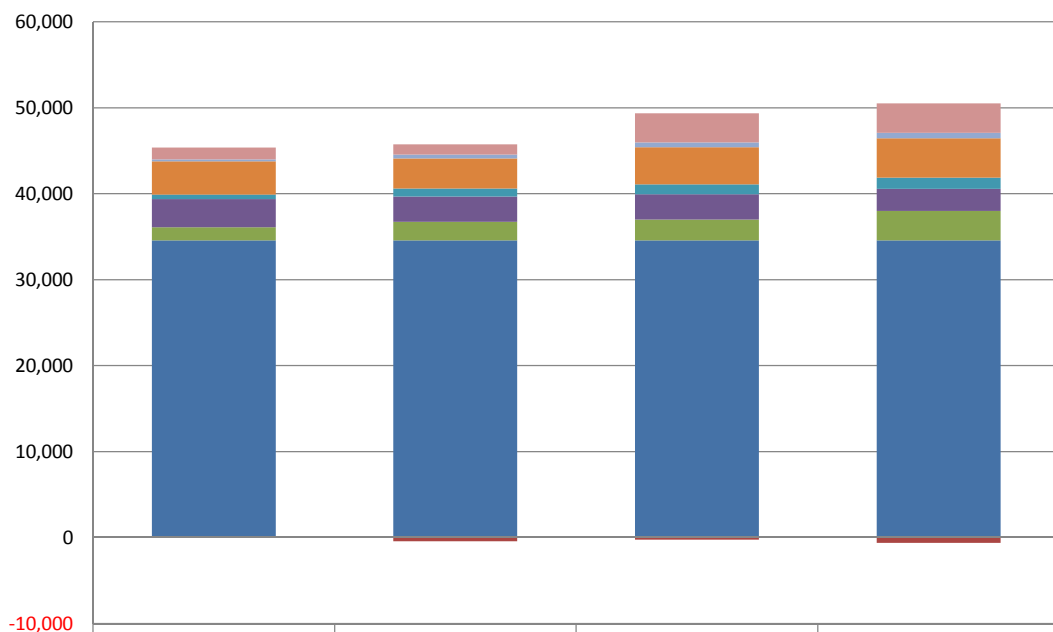
資産



(単位: 百万円)

区分	22年度	構成比	資産説明	前年度との比較	
				増減	特記事項
流動資産	流動資産	15.8%	・現預金、有価証券(1年以内) ・未収附属病院収入 ・未収学生納付金収入 ・病院医薬品在庫	527	・現預金増1,241 ・未収附属病院収入増338 ・未収入金増15、病院医薬品在庫10 ・有価証券▲110(預金へ) ・未収財源措置予定額等固定資産へ計上
固定資産	図書等	その他	・特許権 ・有価証券(1年超) ・未収財源措置予定額	486	・建設仮勘定▲2、ソフトウェア▲10 その他資産▲3、特許権等11 ・未収財源措置予定額等固定資産へ計上
	図書等	図書	・書籍 ・CD-ROM ・雑誌(製本済みのもの)	▲25	・当期取得21 ・除去46 ・蔵書数22年度末203,100冊
	設備建物	設備	・実験、診療器具 ・車両運搬具	155	・当期取得417 【減価償却負担▲262】
	設備建物	建物	・校舎、研究所 ・病院 ・宿舍、学生寮 ・ファミリーハウス	▲350	・当期取得額561 【減価償却負担▲911】 ・施設の改修工事
土地	土地	23.1%	・上記の敷地 ・グラウンド	0	・昨年度と同

負債・純資産

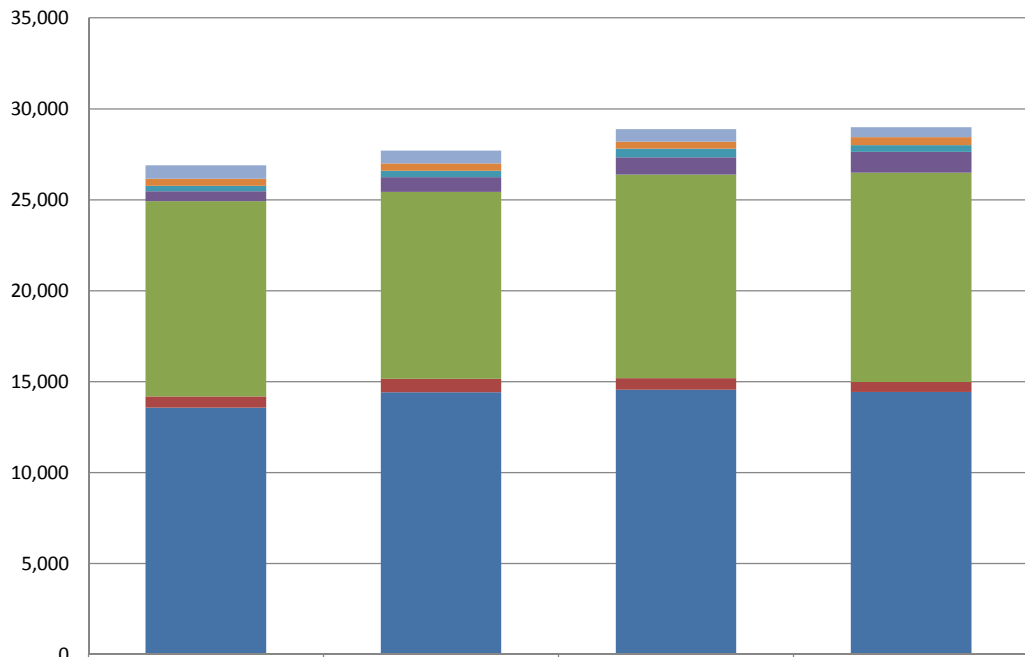


	19年度	20年度	21年度	22年度
■ その他債務	1,402	1,189	3,401	3,441
■ 寄附金債務	206	464	546	619
■ 未払金	3,888	3,506	4,304	4,583
■ 借入金	520	910	1,170	1,300
■ 資産見返負債	3,292	2,967	2,953	2,592
■ 利益剰余金	1,500	2,135	2,397	3,408
■ 資本剰余金	-43	-425	-246	-624
■ 資本	34,585	34,585	34,585	34,585

(単位: 百万円)

区分	22年度	構成比	負債・純資産説明	前年度との比較	
				増減	特記事項
負債	その他負債	その他債務	・繰越して使用予定の交付金 ・繰越して使用予定の受託研究費 ・預り科学研究費補助金等	40	・リース債務減▲340、預かり補助金166 ・運営費交付金債務増84、 ・一年未満長期借入金増130
		寄附金債務	・繰越して使用予定の寄附金	73	・寄附金債務増73
		未払金	・平成23年4月支払いの経費	279	・施設費関係の業者への未払
		借入金	・大学病院の借入金残高(機器整備)	130	・北海道からの借入金増130
	見返負債	資産見返負債	・建築設備取得に使用した交付金、授業料、寄附金の減価償却費を除いた残高	▲ 361	・道からの承継資産分の償却額▲358
純資産	利益剰余金	・目的積立金(21年度以前分) ・積立金(21年度以前分) ・未処分利益(当期総利益)	1,011	・目的積立金114 ・積立金130 ・当期総利益767	
	資本剰余金	・施設費や目的積立金で固定資産の取得額 ・当期の損益外減価償却累計額	▲ 378	・施設整備補助金財源取得512 ・目的積立金財源取得3 ・当期損益外減価償却累計▲893	
	資本	・法人移行時に道から土地・建物等の現物で受けた出資金	0	・昨年度と同	

経常費用

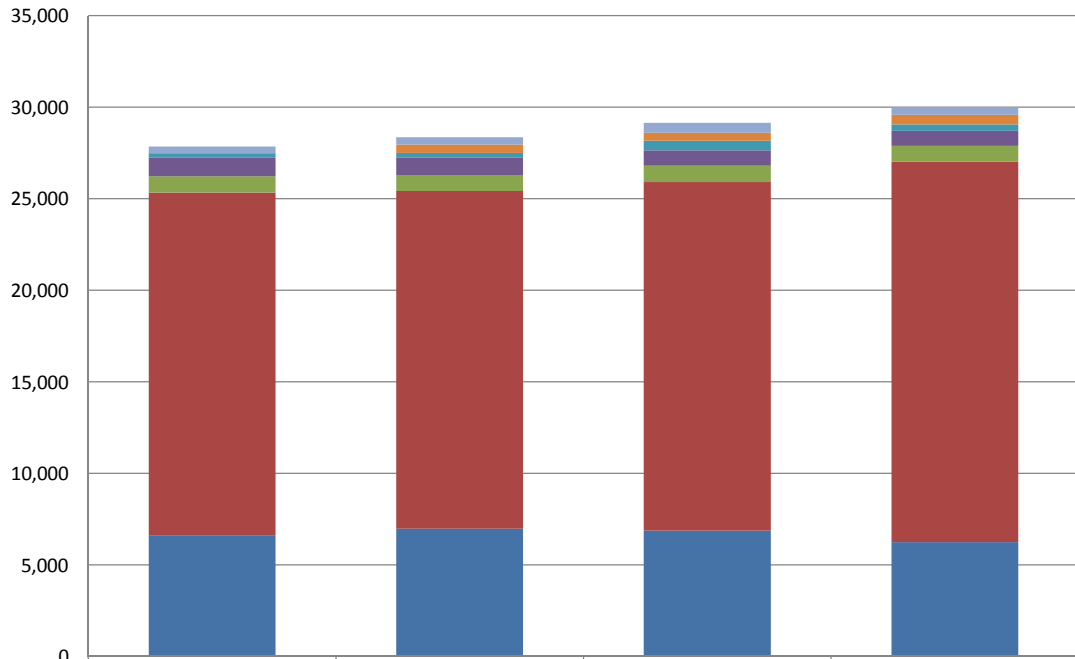


	19年度	20年度	21年度	22年度
■教育経費	743	703	692	537
■教育研究支援経費	383	404	383	456
■受託研究費等	300	355	477	364
■研究経費	540	816	951	1,133
■診療経費	10,739	10,276	11,191	11,520
■一般管理費等	607	731	636	542
■人件費	13,581	14,421	14,551	14,436

(単位: 百万円)

区分	22年度	構成比	費用説明	前年度との比較	
				増減	特記事項
教育	教育経費	1.9%	・学生に対し行われる教育に要する経費	▲ 155	・継承資産に係る減価償却費 ・文部科学省補助金受入減に伴う費用減
	教育研究支援経費	1.6%	・附属総合情報センター(図書館含む)に要する経費	73	・継承図書を除却 ・特許申請査定に伴う費用増
研究	受託研究等	1.6%	・外部から委託を受けて行う受託研究 ・民間等からの研究者及び研究費を受入、共同で行う研究	▲ 113	・受入額の減による費用減
	研究経費	3.9%	・研究に要する経費	182	・特設講座開設に伴う費用増 ・H21補助金財源機器の減価償却費増 ・寄附金による経費の増
診療	診療経費	39.7%	・大学病院における診療の実施に要する経費	329	・病院収益の増に伴う費用増 ・医薬材料費の増
管理運営	一般管理費等	1.9%	・管理運営に要する経費 ・財務費用	▲ 94	・施設費補助金等による修繕費用の減 ・各種経費の節約等
	人件費	49.8%	・一般運営財源、寄附金、補助金を財源とする給与等(受託に係る人件費は含まない)	▲ 115	・退職手当の減 ・給与改定による減

経常収益



	19年度	20年度	21年度	22年度
■ 受託等	360	407	544	421
■ 寄附金	13	442	439	511
■ 補助金	224	257	525	356
■ その他	1,030	956	841	821
■ 学生納付金	890	876	889	866
■ 病院収益	18,735	18,449	19,029	20,775
■ 交付金	6,603	6,973	6,884	6,252

(単位: 百万円)

区分	22年度	構成比	収益説明	前年度との比較	
				増減	特記事項
外部資金	受託等	1.4%	・受託研究 ・受託事業 ・共同研究	▲ 123	・受入額の減
	寄附金	1.7%	・奨学寄付金 ・寄附講座	72	・受入額の増に伴う経費増
	補助金	1.2%	・大学改革推進費(GP)	▲ 169	・文部科学省補助金の獲得減
その他	その他	2.7%	・研究関連収入(間接経費) ・財産貸付料収入 ・資産見返負債戻入 ・受取利息	▲ 20	・施設費収益の減▲48 ・実施許諾、特許出願支援収入等の増 ・科学研究費間接経費収入の増
学納金	学生納付金	2.9%	・授業料 ・入学料 ・検定料	▲ 23	・研究生数の減
診療	病院収益	69.2%	・附属病院収入(外来・入院)	1,746	・入院診療収益増1,613 ・外来診療収益増133
交付金	運営費交付金	20.8%	・運営費交付金収入	▲ 632	・効率化係数による交付額の減少等 ・退職手当交付金の減 ・給与改定に伴う交付金の減

利益と利益処分の推移

(単位:百万円)

	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度
経常収益	27,855	28,360	29,151	30,002
経常費用	26,892	27,706	28,880	28,988
経常利益	963	654	271	1,013
臨時損益	537	▲ 13	▲ 9	0
目的積立金取崩	0	40	0	16
当期総利益	1,500	681	262	1,029

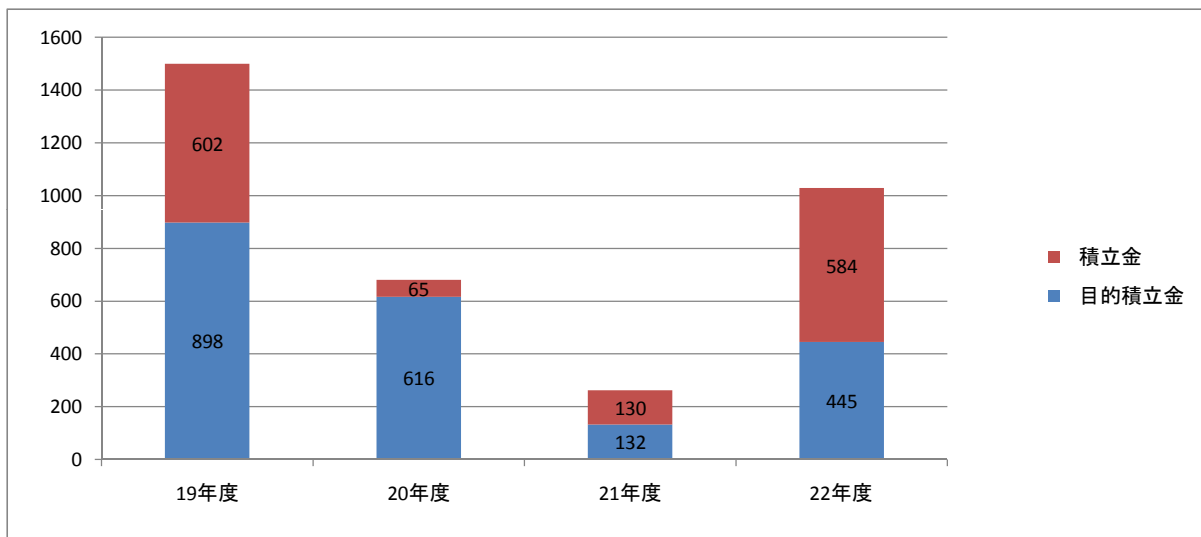
当期総利益の内訳

(単位:百万円)

	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度
目的積立金	898	616	132	445
積立金	602	65	130	584

○経常利益は、損益計算書に計上している経常収益と経常費用の差額です。

○当期総利益は、経常利益に固定資産除却損等の臨時損益を加えた利益であり、目的積立金と積立金に利益処分されます。



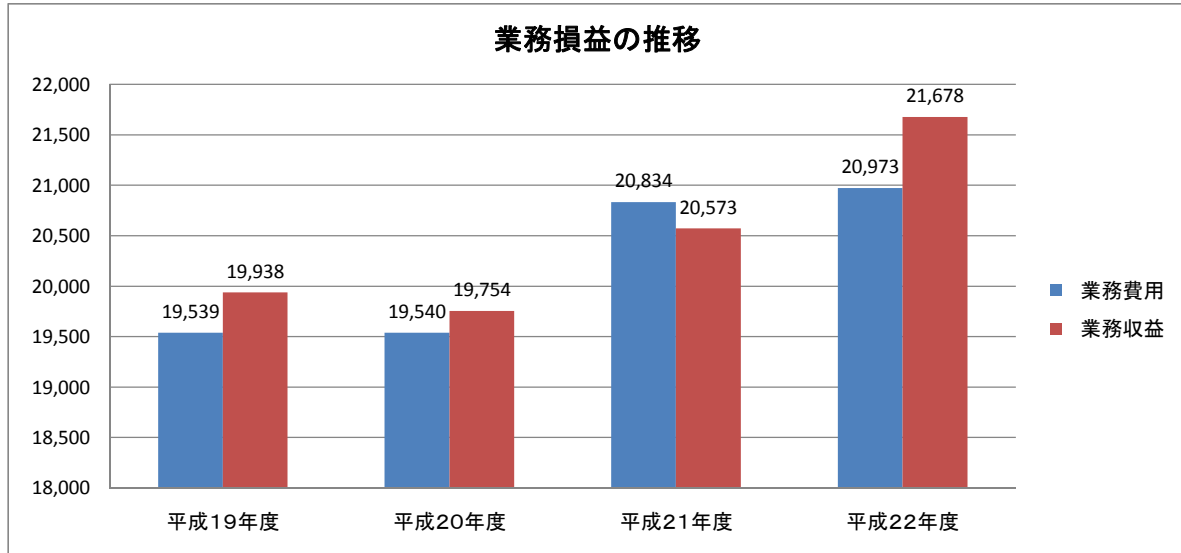
22年度	利益処分	利益処分の発生要因等
当期総利益 1,029百万円	目的積立金 445百万円	(主な発生要因) ・附属病院診療収入の増加に伴う収益の増 ・欠員不補充等による人件費の節減 ・外部資金の獲得による財源の振り替え ・各種経費の節減
	積立金 584百万円	(主な発生要因) ・自己収入の増により資産購入しているため、費用とならず現金の裏付けのない利益であることから、積立金としています。

附属病院業務損益の推移

(単位:百万円)

	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度
業務費用	19,539	19,540	20,834	20,973
業務収益	19,938	19,754	20,573	21,678
業務損益	399	214	▲ 261	705

(単位:百万円)



【業務費用】

(単位:百万円)

22年度		業務費用説明	前年度との比較	
区分	金額		増減	特記事項
その他	85	・教育経費、研究経費、受託研究費、受託事業費 ・財務費用	▲ 14	・受託費用の減
	0.4%			
人件費	9,368	・臨床系教員 ・医員、研修医 ・看護師、技師、事務職員	▲ 176	・退職手当の減 ・給与改定に伴う減
	44.7%			
診療経費	11,520	・診療の実施に要する経費(医薬品、診療材料、医療消耗品器具費、委託費、減価償却費、修繕費、機器保守費、水道光熱費等経費)	329	・病院収益の増に伴う費用増 ・医薬材料費の増
	54.9%			

【業務収益】

(単位:百万円)

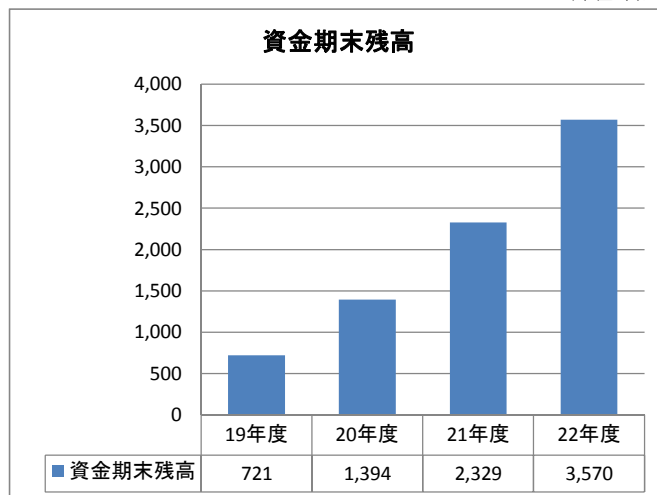
22年度		業務収益説明	前年度との比較	
区分	金額		増減	特記事項
その他	588	・受託研究、寄附金等外部資金収益 ・資産見返負債戻入等	▲ 119	・継承資産に係る資産見返負債戻入額の減
	2.7%			
病院運営費 交付金収益	315	・附属病院に係る交付金	▲ 522	・退職手当交付金の減 ・給与改定に伴う交付金の減 ・効率化係数等による交付額の減少
	1.5%			
病院収益	20,775	・外来収益 ・入院収益 ・文書料	1,746	・入院診療収益増1,613 (入院患者数:279,923人) ・外来診療収益増133 (外来患者数:494,480人)
	95.8%			

キャッシュ・フローの推移

(単位:百万円)

表示区分	説明	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度
① 業務活動による キャッシュ・フロー	通常の業務活動(投資・財務活動以外)の取引に係る収入と支出の差額	1,434	1,681	1,727	2,075
	(収入)運営費交付金、附属病院収入、授業料、受託研究等、寄附金	24,581	27,886	29,076	29,518
	(支出)人件費支出、原材料・商品・サービス購入による支出	▲ 23,147	▲ 26,205	▲ 27,349	▲ 27,443
② 投資活動による キャッシュ・フロー	資産の取得及び売却等の取引に係る収入と支出の差額	▲ 660	▲ 883	▲ 582	▲ 449
	固定資産の取得及び売却の取引	▲ 660	▲ 891	▲ 686	▲ 561
	(収入)施設費による収入、資産売却による収入	0	841	522	1,014
	(支出)建物・設備の取得、除却	▲ 660	▲ 1,732	▲ 1,208	▲ 1,575
	投資資産の取得及び売却の取引	0	8	104	111
	(収入)定期預金の払戻、有価証券の償還	0	8	2,404	111
	(支出)定期預金・有価証券の取得	0	0	▲ 2,300	0
③ 財務活動による キャッシュ・フロー	資金調達及び返済の取引に係る収入と支出の差額	▲ 573	▲ 645	▲ 730	▲ 905
	(収入)長期借入による収入	520	520	520	520
	(支出)借入金の返済、利息の支払、ファイナンスリース債務の返済	▲ 573	▲ 645	▲ 730	▲ 905
④ 資金増減額	当期中の現預金(拘束性のない手元現金・当座預金・普通預金)増減額	201	153	415	721
⑤ 資金期首残高	前期末現預金残高	0	721	1,394	2,329
⑥ 資金期末残高	当期末現預金残高	201	874	1,809	3,050

(単位:百万円)



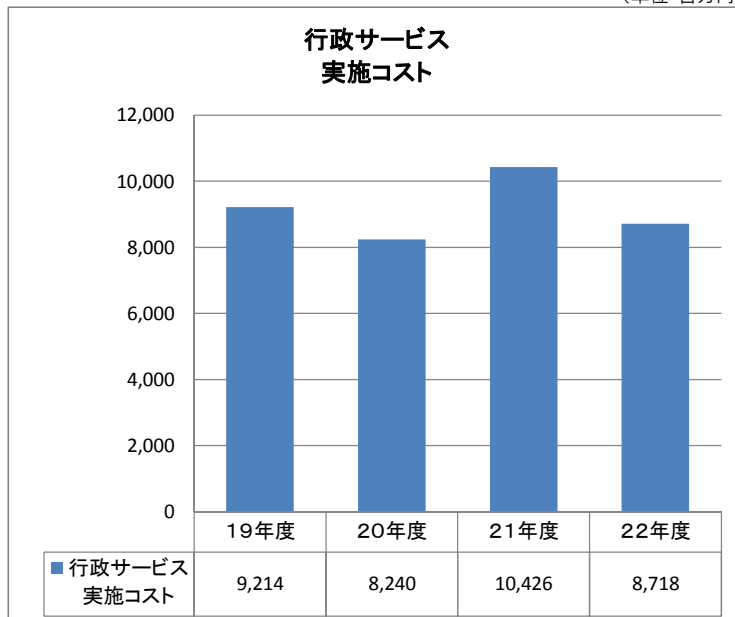
○キャッシュ・フロー計算書は、一定期間における「お金(キャッシュ)」の「流れ(フロー)」を表しています。損益計算書には表れない固定資産取得や借入・借入返済等も含めて、「現金」の受払の全てを表示しています。損益計算書からだけでは読み取ることができない経営状況、経営努力、経営方針等を把握することが可能であり、民間企業においても重視されている計算書です。

業務実施コストの推移

(単位:百万円)

	表示区分	説明	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度
機会費用	国又は地方公共団体の無償又は減額された使用料による貸借引取の機会費用	国や地方公共団体から市場価格よりも廉価で賃借している土地等(職員宿舍、課外活動敷地など)について市場価格で賃借したならば得られたはずの金額を国民が得られなかった利益喪失の費用として認識する。	16	16	16	16
	地方公共団体出資の機会費用等	出資金、地方公共団体から拠出された資本剰余金等について、その金額を市場で運用したならば得られたはずの金額を国民が得られなかった利益喪失の費用として認識する。	390	460	478	429
損益外減価償却等	損益外減価償却等相当額 損益外減損損失相当額	施設費等で取得した建物に係る減価償却費等は、損益計算書に費用として反映させていないが、最終的には国民負担となるため、業務運用費用と認識する。	743	790	831	894
	引当外賞与増加見積額 引当外退職給付増加見積額	運営費交付金を財源とする教職員に係る賞与と退職金は、損益計算書に費用(引当金)として反映させていないが、最終的には国民負担となるため業務運営費用と認識する。	549	▲ 440	1,254	1,135
業務費用	損益計算書上の費用	経常費用と臨時損失の合計	27,685	27,725	28,889	28,989
	(控除)自己収入等	自己収入(授業料、病院収益等) ※国民負担ではないので控除する。	▲ 20,169	▲ 20,311	▲ 21,042	▲ 22,744
行政サービス実施コスト			9,214	8,240	10,426	8,718

(単位:百万円)



○公立大学法人は、その業務を行うために、納税者である国民から、財産(税金・土地・建物等)を負託されています。

このため「行政サービス実施コスト計算書」を作成して、最終的に国民の負担となるコストを示しています。

民間にはない財務諸表です。

○通常コスト情報としては損益計算書中の費用の部が挙げられますが、そこから法人の自己収入分を減じたものに制度上費用に含まれない退職給付引当金の負担増加額や国が政策的に免除している経費を加えることにより、大学の運営に要したコスト負担額をより明らかにするものです。

○財務指標(年度間比較)

指標	指標算出方法	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	増△減(前年比較)	評価
流動比率 【貸借対照表】	流動資産÷流動負債	117.1 %	130.9 %	129.9 %	123.5 %	▲ 6.4 %	高い値が良い ↓
	流動資産	5,352 百万円	5,890 百万円	7,333 百万円	7,861 百万円	528 百万円	
	流動負債	4,569 百万円	4,500 百万円	5,643 百万円	6,367 百万円	724 百万円	
自己資本比率 【貸借対照表】	資本(純資産)÷(負債+資本(純資産))	79.5 %	80.1 %	74.8 %	74.9 %	0.1 %	高い値が良い ↑
	資本(純資産)	36,042 百万円	36,295 百万円	36,736 百万円	37,369 百万円	633 百万円	
	負債	9,308 百万円	9,036 百万円	12,374 百万円	12,535 百万円	161 百万円	
経常利益比率 【損益計算書】	経常利益÷経常収益	3.5 %	2.3 %	0.9 %	3.4 %	2.5 %	高い値が良い ↑
	経常利益	963 百万円	654 百万円	270 百万円	1,013 百万円	743 百万円	
	経常収益	27,855 百万円	28,360 百万円	29,151 百万円	30,002 百万円	851 百万円	
人件費対業務費 【損益計算書】	人件費÷業務費	51.7 %	53.5 %	51.5 %	50.7 %	▲ 0.8 %	低い値が良い ↑
	人件費	13,581 百万円	14,421 百万円	14,551 百万円	14,436 百万円	▲ 115 百万円	
	業務費	26,286 百万円	26,975 百万円	28,244 百万円	28,446 百万円	202 百万円	
一般管理費対業務費 【損益計算書】	一般管理費÷業務費	2.3 %	2.7 %	2.2 %	1.8 %	▲ 0.4 %	低い値が良い ↑
	一般管理費	607 百万円	726 百万円	625 百万円	529 百万円	▲ 96 百万円	
	業務費	26,286 百万円	26,975 百万円	28,244 百万円	28,988 百万円	744 百万円	
外部資金比率 【損益計算書】	(受託研究等収益+受託事業等収益+寄附金収益)÷経常収益	2.1 %	3.0 %	3.4 %	3.1 %	▲ 0.3 %	高い値が良い ↓
	①受託研究収益+受託事業収益	360 百万円	407 百万円	544 百万円	421 百万円	▲ 123 百万円	
	②寄附金収益	224 百万円	442 百万円	439 百万円	511 百万円	72 百万円	
外部資金比率 (科学研究費補助金を含む) 【損益計算書】 【附属明細書】	(受託研究等収益+受託事業等収益+寄附金収益+科学研究費補助金)÷経常収益	4.7 %	5.0 %	5.4 %	4.8 %	▲ 0.6 %	高い値が良い ↓
	上記 ①+②	584 百万円	849 百万円	983 百万円	932 百万円	▲ 51 百万円	
	科学研究費補助金	736 百万円	566 百万円	605 百万円	519 百万円	▲ 86 百万円	
	経常収益	27,855 百万円	28,360 百万円	29,151 百万円	30,002 百万円	851 百万円	
診療経費比率 【損益計算書】	診療経費÷附属病院収益	57.3 %	55.7 %	58.8 %	55.5 %	▲ 3.3 %	低い値が良い ↑
	診療経費	10,739 百万円	10,276 百万円	11,191 百万円	11,520 百万円	329 百万円	
	附属病院収益	18,735 百万円	18,449 百万円	19,029 百万円	20,775 百万円	1,746 百万円	
1病床あたりの附属病院収益 【損益計算書】	附属病院収益÷病床数	20.0 百万円	19.7 百万円	20.3 百万円	22.1 百万円	1.8 百万円	高い値が良い ↑
	附属病院収益	18,735 百万円	18,449 百万円	19,029 百万円	20,775 百万円	1,746 百万円	
	病床数	938 床	938 床	938 床	938 床	0 床	
学生1人あたりの教育経費 【損益計算書】 【事業報告書】	教育経費÷学生数	609 千円	573 千円	551 千円	419 千円	▲ 132 千円	高い値が良い ↓
	教育経費	743 百万円	703 百万円	691 百万円	537 百万円	▲ 154 百万円	
	学生数	1,221 人	1,226 人	1,255 人	1,283 人	28 人	
教員1人あたりの研究費 【損益計算書】 【事業報告書】	研究経費÷教員数	1,425 千円	2,119 千円	2,512 千円	3,005 千円	493 千円	高い値が良い ↑
	研究経費(※1)	540 百万円	816 百万円	952 百万円	1,133 百万円	181 百万円	
	教員数	379 人	385 人	379 人	377 人	▲ 2 人	
教育経費対業務費比率 【損益計算書】	教育経費÷業務費	2.8 %	2.6 %	2.4 %	1.9 %	▲ 0.5 %	高い値が良い ↓
	教育経費	743 百万円	703 百万円	691 百万円	537 百万円	▲ 154 百万円	
	業務費	26,286 百万円	26,975 百万円	28,244 百万円	28,446 百万円	202 百万円	
研究経費対業務費比率 【損益計算書】	研究経費÷業務費	2.1 %	3.0 %	3.4 %	4.0 %	0.6 %	高い値が良い ↑
	研究経費(※1)	540 百万円	815 百万円	952 百万円	1,133 百万円	181 百万円	
	業務費	26,286 百万円	26,975 百万円	28,244 百万円	28,446 百万円	202 百万円	

(※1)平成19年度の研究経費については、寄附金による研究経費支出が少ない。平成19年9月末までの寄附金は、(財)札幌医科大学学術振興会の取り扱いであったため法人の財務諸表には反映されていない。

(※2)財務指標の評価は、個々の内部事情を個別に判断しなければ一概にその良否を言えないが、あくまで一般的な財務指標の高低の評価を記載した。

資料編

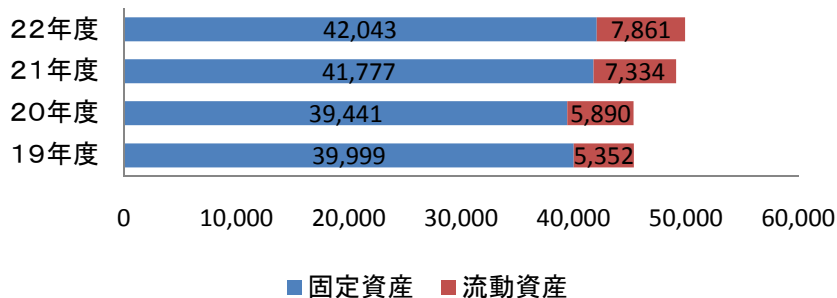
○貸借対照表

資産の部

49,904 百万円

対前年度

793 百万円増加



・資産の約8割は土地、建物等の固定資産により構成されており、そのほとんどは平成19年4月1日の公立大学法人化により、道から承継されたものです。

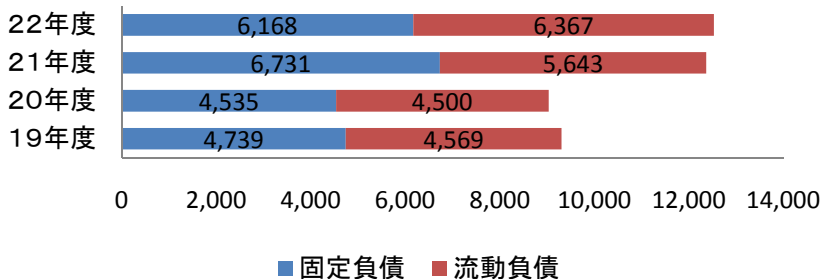
計画的な施設整備・維持・充実を図っており、平成22年度については、空調機等の更新工事や外壁改修工事、また、教育・研究・診療の機械備品等の新規購入や更新により資産が増加しています。

負債の部

12,535 百万円

対前年度

161 百万円増加



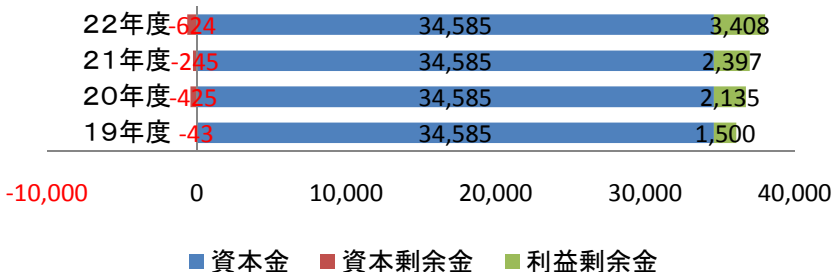
・負債は会計基準上の分類である固定・流動の別の他に将来的に支払義務を負う債務(借入金等)と支払義務のない会計的負債(資産見返負債等)に分類できます。平成22年度については、翌年度に繰り越す運営費交付金債務や預り補助金等、寄附金債務などが支払義務のない会計的負債が増加しています。

純資産の部

37,369 百万円

対前年度

632 百万円増加



・純資産には公立大学法人化の際に道から出資された資本金(道出資金)の他に、資本の増減取引により発生する資本剰余金と業務の遂行上で生じた利益からなる利益剰余金があります。平成22年度は当期利益が10億円あり、利益剰余金が増加しています。

資 産

土地	11,544 百万円	対前年度	0 百万円
建物等	22,313 百万円	対前年度	▲ 320 百万円
建物仮勘定	7 百万円	対前年度	▲ 2 百万円

札幌市内、利尻富士町併せて約10万㎡の敷地を有し、キャンパスの他、臨床教育研究棟、附属病院、基礎医学研究棟、国際医学交流センター、記念ホール、臨海研究所(利尻富士町)などの施設を有している。平成22年度については、長期保全計画に基づく空調機更新工事や電力設備更新工事などの施設の整備・維持・充実に図りました。

機械備品	6,033 百万円	対前年度	155 百万円
図書・美術品	809 百万円	対前年度	▲ 25 百万円

機械備品は、教育・研究・診療等で使用する機械装置の取得や科学研究費補助金等による備品の現物寄附などにより減価償却額を上回って増加しており、運営に必要な資産について適切な設備更新に努めています。また、図書・美術品は教育研究を行う上で基礎となる重要な資産に位置づけられており、教育・研究の品質の維持向上のため、図書整備経費を確保しています。

現金・預金	3,570 百万円	対前年度	1,241 百万円
-------	-----------	------	-----------

期末の現金・預金は、利益剰余金のほか、主に年度末の未払金見合いの現金や寄附金等の外部資金の繰越額等からなります。

未収入金	3,940 百万円	対前年度	344 百万円
未収学生納付金収入	2 百万円	対前年度	▲ 2 百万円
未収附属病院収入	3,886 百万円	対前年度	337 百万円
その他未収金	52 百万円	対前年度	9 百万円

期末の未収入金は未収学生納付金収入、未収附属病院収入、それ以外の未収入金(受託研究等、受託事業等の未収金など)からなります。平成22年度末においては、未収学生納付金収入については、約2百万円減少、未収附属病院収入は約3億円ほど増加しています。

負 債

資産見返負債	2,592 百万円	対前年度	▲ 360 百万円
--------	-----------	------	-----------

道から交付される運営費交付金等で購入した固定資産(償却資産)の残存価格を負債として計上したもので、公立大学法人の会計の特徴的な勘定科目です。対象資産の減価償却額と同額を収益へ振り替えることで、収入を見込むことのできない教育研究用の機器備品等の減価償却費計上による費用超過が生じない仕組みとなっています。返済義務を伴う法律上の負債とは性格が異なります。

借入金(固定負債)	1,300 百万円	対前年度	130 百万円
借入金(流動負債)	390 百万円	対前年度	130 百万円

道からの借入金で附属病院の医療機器等の固定資産を購入するための財源となっており、毎年度5億2千万円の借り入れを行っています。(1年据え置き4年間での償還)なお、一年以内に返済が予定されている金額は流動負債に計上します。

運営費交付金債務	313 百万円	対前年度	84 百万円
----------	---------	------	--------

道から交付を受けた運営費交付金は、一旦負債として計上した後、教育・研究等の実施状況に応じて収益に計上します。原則として期間の進行に伴い収益化しますが、特定の費用の発生と同時に収益化すべきものについては、運営費交付金債務として翌年度への繰越が認められております。運営費交付金債務のうち、214百万円が平成22年度に繰り越した債務です。

寄附金債務	619 百万円	対前年度	73 百万円
-------	---------	------	--------

企業や地域の皆様から本学へお寄せいただいた寄附金の残額等を表します。受入時は貸借対照表の負債に計上し、寄附の目的に沿って使用した後に費用進行基準により損益計算書の収益の部に計上します。

未払金	4,583 百万円	対前年度	278 百万円
-----	-----------	------	---------

ほとんどが3月及び年度末の各種請求に対する未払金であり、それらは翌年度の当初に支払いが行われず。

純 資 産

資本金	34,585 百万円	対前年度	0 百万円
-----	------------	------	-------

法人化にあたって道から出資を受けた資産の総額です。

資本剰余金	▲ 624 百万円	対前年度	▲ 379 百万円
-------	-----------	------	-----------

非償却資産の取得、施設費や目的積立金を財源とした資産の取得等に伴う増加や特定償却資産の減価償却相当額見合いの減少などを計上します。

利益剰余金	3,408 百万円	対前年度	1,011 百万円
-------	-----------	------	-----------

業務に関連して発生した剰余金を示します。前年度から繰り越した目的積立金の残額が1,582百万円、積立金796百万円に当期の未処分利益1,029百万円が含まれます。

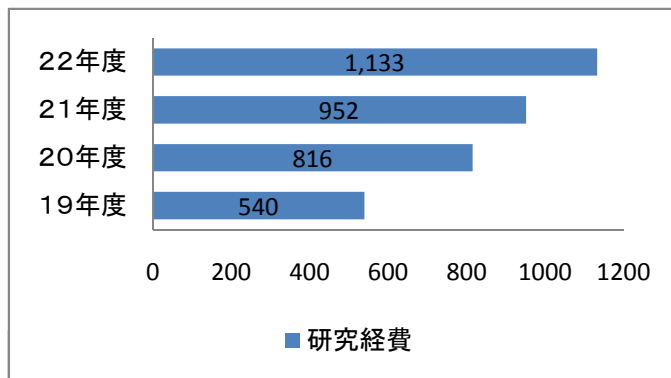
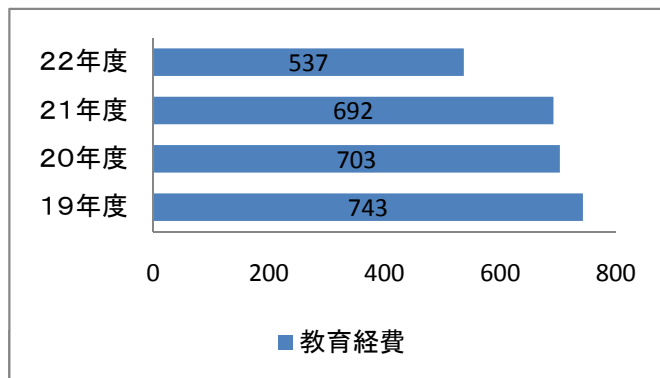
○損益計算書

経常費用

教育経費	研究経費
537 百万円 対前年度 ▲ 155百万円	1,133 百万円 対前年度 181百万円

・入学試験、学部教育など学生等に対し行われる教育に要する経費です。奨学金(授業料等の減免額に相当)、教育環境の維持費用等が含まれます。

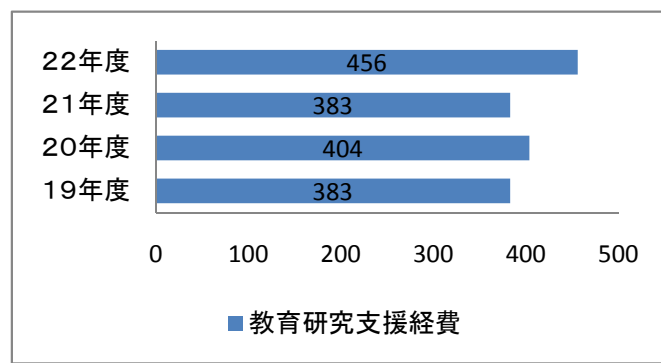
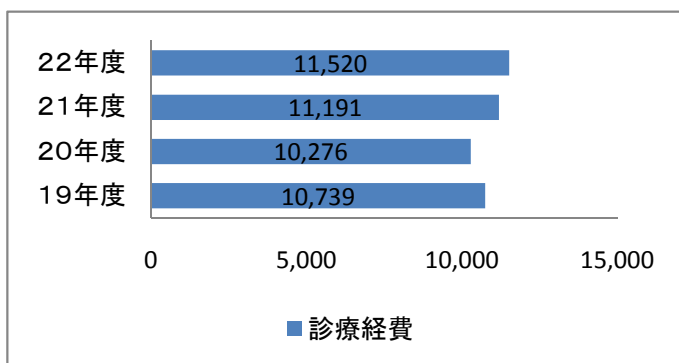
・各学部や研究所等における研究に要する経費です。
・平成22年度は北海道等から特設講座に係る助成金等の獲得により前年度と比較して1億8千万円増加しています。



診療経費	教育研究支援経費
11,520 百万円 対前年度 329百万円	456 百万円 対前年度 73百万円

・附属病院における附属病院収益の獲得に要する経費です。診療活動の活発化による収益増に見合う形で増加する傾向があり、平成22年度は患者数の増加に伴い医薬材料費等が増加しています。

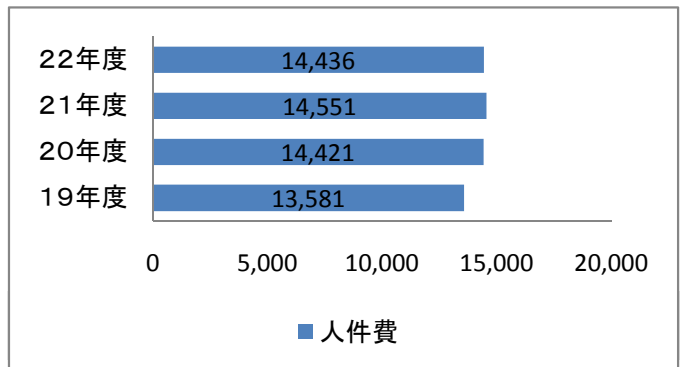
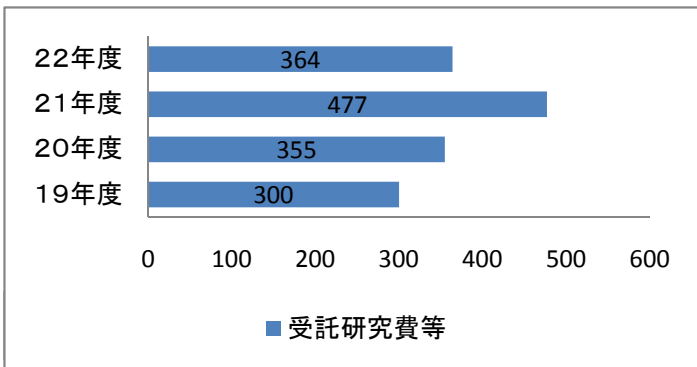
・附属総合情報センター等の大学全体の教育研究の双方を支援するために設置された組織の運営に要する経費です。なお、書籍など図書の取得は資産の部の図書に含まれます。



受託研究費等	人件費
364 百万円 対前年度 ▲ 113百万円	14,436 百万円 対前年度 ▲ 115百万円

・受託研究、共同研究及び受託事業の実施に要する経費です。研究者個人に交付される科学研究費補助金はここには含まれません。
 ・積極的に産学官の連携協力に取り組んだ結果、年々増加する傾向にありますが、平成22年度については、受託研究費が前年度より減少しています。

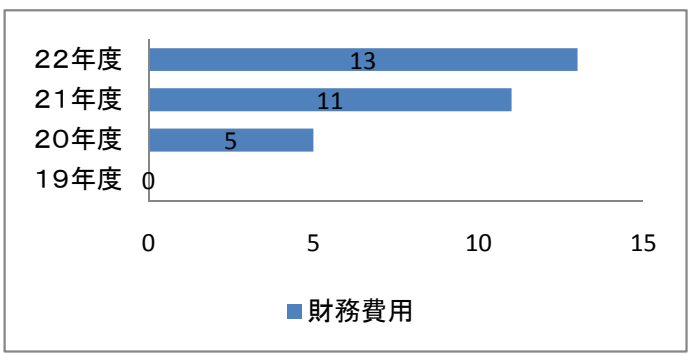
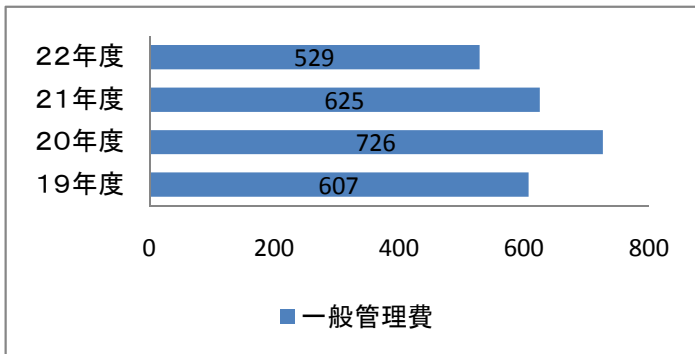
・役員への報酬・賞与・退職金及び教職員への給与・賞与・退職金が含まれています。
 ・平成22年度は、給与改定の影響で前年度より減少しています。



一般管理費	財務費用
529 百万円 対前年度 ▲ 96百万円	13 百万円 対前年度 2百万円

・大学全体の管理運営を行うための経費及び他の区分に属さない業務経費が含まれています。
 ・平成22年度は各種経費の節減等で前年度より減少しています。

・借入金利の支払いなど財務的な活動に伴う費用です。本学の財務費用は道からの借入金に伴う利息の支払いによるものとなっています。

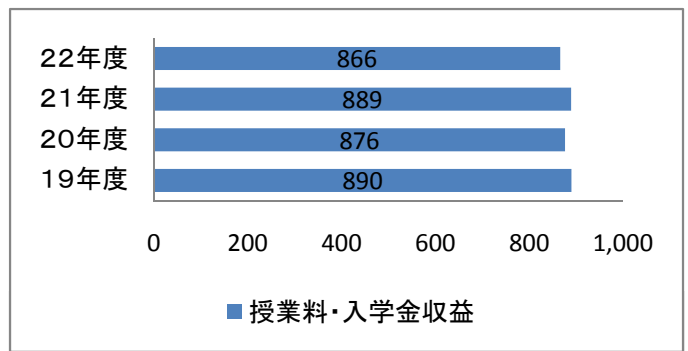
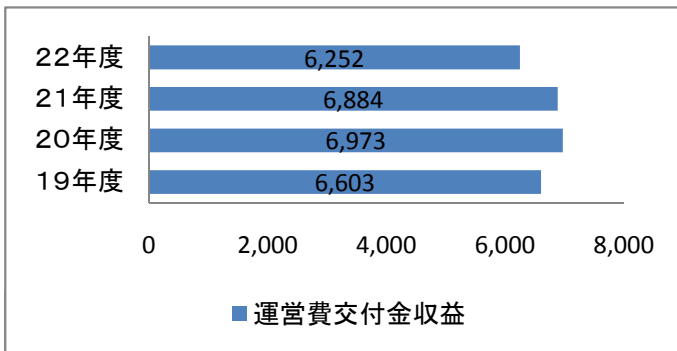


経常収益

運営費交付金収益	授業料・入学金収益
6,252 百万円 対前年度 ▲ 632百万円	866 百万円 対前年度 ▲ 23百万円

・北海道から措置される大学運営を行うために使用できる交付金による収益です。効率化係数などの影響により毎年減少傾向にあります。平成20年度は、職員給与縮減幅の圧縮により、交付金が増加しています。

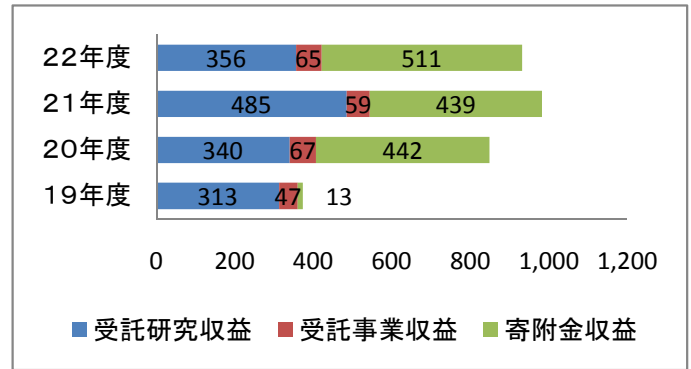
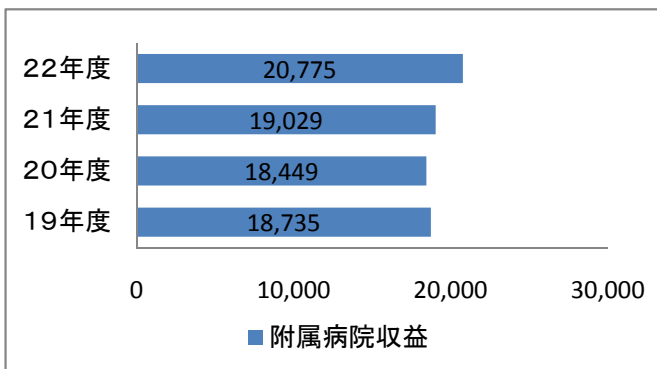
・授業料や入学金、検定料などの学生納付金による収益です。平成22年度は、研究生の減で前年度より減少しています。



附属病院収益	受託研究・寄附金収益
20,775 百万円 対前年度 1,746百万円	932 百万円 対前年度 ▲ 51百万円

・病院における診療による収益です。
・平成22年度は患者数の増加や診療報酬の改定等に伴い、診療収入が増加しています。前年度と比較して、入院患者数は7,717人の増、外来患者数は、11,084人の増となっています。

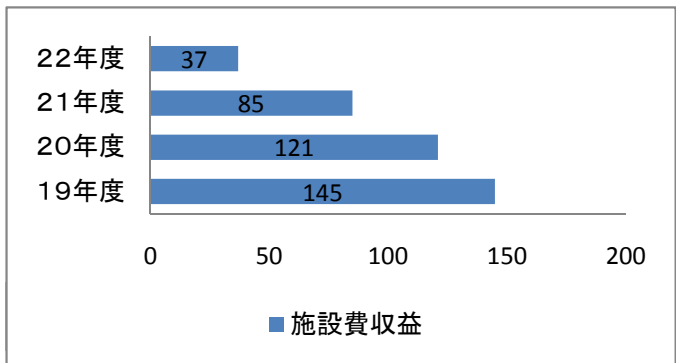
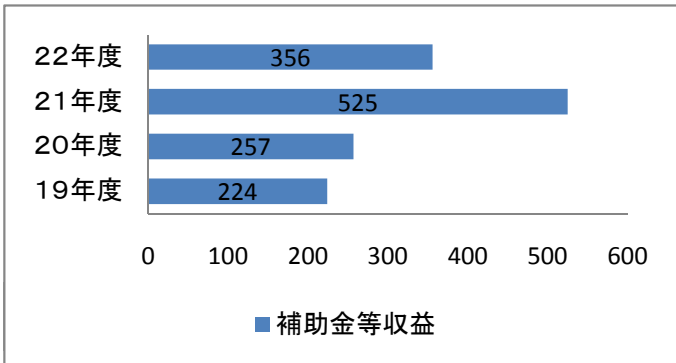
・受託研究、受託事業、寄附金などの外部資金の受入に伴う業務実施収益です。
・平成22年度は受託事業収益と寄附金収益が前年度より増加しています。
※平成19年9月まで寄附金は(財)札幌医科大学学術振興会の取り扱いで財務諸表には反映されていません。



補助金等収益	施設費収益
356 百万円 対前年度 ▲ 169百万円	37 百万円 対前年度 ▲ 48百万円

・国等から交付された大学改革推進等補助金(GP)等の受入に伴う業務実施収益です。平成22年度は、文部科学省の大学改革推進等補助金事業の終了に伴い、減少しています。

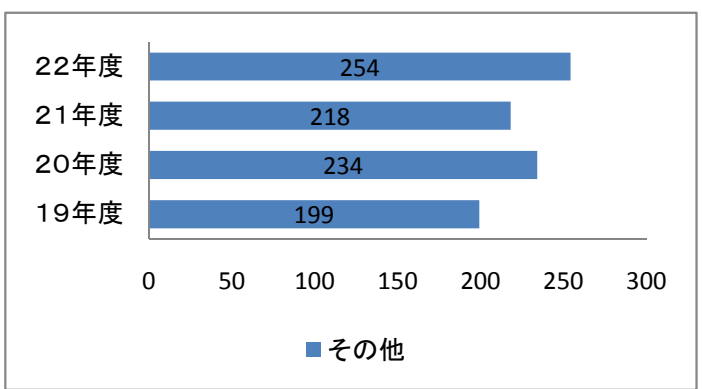
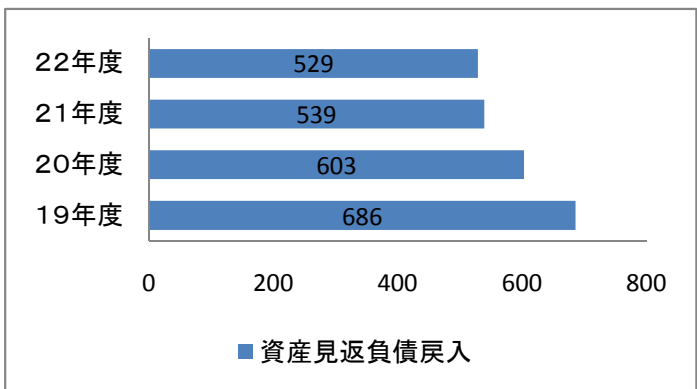
・施設費により措置されたもののうち、資本を構成しない修繕費、附帯事務費等の費用化された額に対応する収益です。



資産見返負債戻入	その他
529 百万円 対前年度 ▲ 10百万円	254 百万円 対前年度 36百万円

・固定資産取得の際、負債に計上した取得財源毎の資産見返負債を減価償却に対応して取り崩す、公立大学法人会計の特徴的な科目です。

・財務収益や財産貸付料収入などの雑益が含まれます。



財務報告書2011

平成23年9月発行

発行・編集 北海道公立大学法人札幌医科大学事務局
経営企画課財務室